



ごあいさつ

杉循環器科内科病院 院長

杉 健 三



災害続きであった平成の時代が終わろうとしています。新しい元号のもとで人々が安全で安心な毎日を送れる日々となればと思います。

さて、2016年9月に安倍首相が提唱した「一億総活躍社会」実現のための「働き方改革」を目標とした施策が次々と打ち出されています。医療機関に働く人々の使命感に基づく自己犠牲による従来の働き方の見直しは、早急に行われなくてはなりません。救急医療をはじめとした地域医療への大きな影響は避けられません。

他の地域に先駆けて人口減少を伴う少子超高齢社会を迎えたこの地域では、地域の状況と軌を一にして医療および介護要員の確保がますます困難となっています。

今、国や県あるいは市により推し進められている「地域医療構想」も「地域包括ケアシステム」も看護および介護要員の確保なしには実現することは出来ません。

そのようななか杉循環器科内科病院では、今年の1月にフィリピンより3名の優秀な看護師および准看護師をと共に働く仲間として迎えることが出来ました。

彼女たちは、平成26年より福岡県医師会が行っている「福岡県医師会外国人看護師候補者資格取得支援事業」により当院に派遣された貴重な人材です。

今後は、当院で働きながら大牟田医師会看護専門学校の協力を得てさらに研修を積んでもらい、この地域の医療の貢献してもらうとともに、一日も早く日本の文化や習慣を理解することで我が国とフィリピンの架け橋になってくれることと期待しています。



医療法人シーエムエス

杉循環器科内科病院

〒837-0916 大牟田市大字田隈950-1 (誠修高校前)
TEL (0944) 56-1119 FAX (0944) 56-2077
E-mail: info@sugi-hosp.jp URL <http://www.sugi-hosp.jp>



医療法人シーエムエス

柳川 すぎ病院

〒832-0826

柳川市三橋町高畑263-1
TEL: 0944-72-7171



医療法人シーエムエス

日の出町すぎ病院

〒836-0806

大牟田市東新町2-2-5
TEL: 0944-55-3000

炭酸ガスを用いた 経皮的シャント拡張術 (VAIVT)

腎臓内科 杉山 美樹 / 太田 寛二



透析室は医師、看護師、臨床工学技士、医療事務、管理栄養士などのスタッフがチームとして患者さんの治療にあたっています。現在、当院では43床の規模で、月・水・金曜日は午前、中間、夜間の3クール、火・木・土曜日は午前、中間の2クール、計120人前後の患者さんの血液透析治療を行っております。透析中は装置の動作確認だけでなく、全身状態の観察や対応を行い、食事や生活指導、運動リハビリ療法も併せて行っております。我が国の高齢社会の如く、当院でも75歳以上の患者さんが約半数を占めております。高齢者は、元気な方から寝たきりの方まで居られ、非常に個人差が大きいため、適宜、御本人様及び御家族と協議を行い、個々に合わせた治療も行っております。

血液透析を行うにあたり、透析患者さんは一般的にシャントと言われる手術を施した血管：バスキュラーアクセス(VA)をお持ちです。血液透析は、このVAから血液を取り出し、器械を使って体の余分な水分や老廃物を取り除く治療であり、腎臓の働きが乏しくなった方にはなくてはならない治療の一つです。そのため、VAは文字通り透析患者さんにとっては命綱のようなものでありますが、時間の経過や血圧低下、穿刺など様々な影響でVAが狭窄することがあります。狭窄により十分に血液を取り出すことが出来なくなれば、安定した透析療法を受けることが出来なくなるだけでなく、狭くなったVAを放置しておくとも完全に閉塞する危険性があり、VAを作り直すことも珍しくはありません。

長期間使用するためには、狭くなったVAの早期発見と治療が有効であるとされておりますが、その治療として、当院ではVAIVT(Vasucular Access Interventional Therapy; バイプト)を行っています。VAIVTとは血管内に風船(バルーン)を挿入し、狭くなったVAを内側から広げる治療であり、比較的短時間に治療ができるため、シャントの作り直しに比べ身体面の負担が少ない治療になります(以前はシャントPTAと呼ばれていました)。当院では平成30年度は約90例のVAIVTを施行しておりますが、基本的にVAIVTは造影剤を用いて狭くなったVAを確認し治療を行います。そのため造影剤アレルギーをお持ちの患者さんには通常のVAIVT施行は困難とされておりました。そこで当院では2018年10月より、造影剤アレルギーの患者さんにも安心してVAIVTを施行して頂くために炭酸ガス造影でのVAIVTを導入しております。炭酸ガスを用いたVAIVTとは、造影剤の代わりとして、炭酸ガスを直接血管内に投与し、それにより狭くなったVAを特定します。炭酸ガスは血管内に投与してもすぐに体の中へ吸収されるため基本的に無害とされており、狭くなったVAを安全に特定することが出来ます。造影剤と比べるとやや解像度が劣るものの、造影剤アレルギーの方にも通常通りVAIVTを行えるという点では非常に有効な手法と言えます。

当院では今後も積極的に炭酸ガスを用いたVAIVTを行っていく予定ですが、治療の幅が広がったことにより、これまでに以上に透析患者さんに安心して安全な医療を届けられれば幸いです。





CPX検査をご存知ですか？

検査室 境 優 介

杉循環器科内科病院ではCPX検査(心肺運動負荷検査)を行っております。CPX検査とは、心電図、血圧、呼吸中の酸素、二酸化炭素の濃度を計測しながら運動(自転車こぎ)していただくことで心臓だけでなく、肺や運動に使われる筋肉の状態等を総合的に見て、運動耐容能(体力)を評価する検査です。



適度な運動の持続は肥満等の生活習慣病の予防だけではなく、末梢循環がよくなり、心臓の負担を軽減するということが分かっており、近年、高血圧や心疾患の方へも運動療法(心臓リハビリ)が推奨されてきています。

また、実際どの程度の運動をすればよいのかという点において、自分自身で体力を評価し、心臓に負担無く安全に行える運動量を把握することは困難です。しかし、CPX検査を行うことで、自分自身にとって安全に行える運動量を把握することができ、それを元に具体的な指導(運動処方)をさせて頂く事ができます。

現在は、入院患者さんに対してだけでなく、外来患者さんに対しても行う事で、外来リハビリにおけるリハビリ指標ともなっています。

ご興味のある方や詳しい説明を受けたい方は御来院の際に是非お尋ね下さい。





『オーラルフレイルって何?』

リハビリ室 言語聴覚士 清水 健一

2018年10月14日に、日の出町すぎ病院にて、「ふれあい健康デー」が地域の皆さんに向けて開催されました。名取院長司会の『フレイル予防は「食事」と「運動」から』の講演の中で「オーラルフレイル」に関して話をさせて頂きました。オーラルフレイルとは、健康に生きるための咬む・食べる・飲む・話すといった口の機能が低下していくことを言います。これは、全身のフレイルの初期症状として現れます。その症状とは、咬めない食品が増えた・食べこぼす・むせる(特に温かいもの)・むせた後吐き出せない・口の中の渇き・呂律が回りづらいといったものです。しかし、下記のように注意することでオーラルフレイルから健康な口の機能に戻すことができます。

1番目の注意点は、口・体をしっかりと動かし、良質な栄養をとることです。食事を良く咬んだり、ゆっくりと食べたり飲みこんだりする事。また、地域のコミュニティへ参加し、体を動かしたり、ご家族、ご親族や近くのご友人とお話をしたりすることも重要です。

そして2番目の注意点は、口の中のケアとして、歯磨き・入れ歯の手入れなどを毎日しっかりとすることで、自分のお口に興味をもつことです。

杉病院グループでは、全身管理の面から全身のフレイルが進行して摂食嚥下障害へなる前に、オーラルフレイルを予防し、地域の皆さんの健康の維持に貢献できるよう、外来患者さんや入院患者さんに対し、口腔リハビリテーションを始めました。医師、看護師、管理栄養士、セラピストが、多職種連携の下「健康に食べつづける」ことが長く続きますよう、医療に基づいた助言をさせて頂いています。



第8回 透析セミナー開催について

透析室 看護師長 川崎 真由美

第8回透析セミナーを2018年10月14日(日)に開催しました。今回の参加者は、透析患者さん34名、その家族5名、医師をはじめ透析室スタッフ、コメディカルを含め21名でした。今回のテーマでもある「栄養」についての講演は、手作りのダイアライザーなどを用いて、参加者へ分かりやすいように工夫しました。また、4名の患者さんが透析歴20年を迎えられ、病院からの表彰と、心ばかりのお祝いをさせていただきました。腎友会の会長からは、ともに透析を受けられている

患者さんに向けて、腎友会の成り立ち等についてお話がありました。腎友会の活動や会員の減少、先人の方々の働きによって、現在の自分達がある事を、会場にいられている方へ熱心に語りかけられていたことが印象的でした。また、理学療法士と会場の皆さん、スタッフ全員と一緒に椅子に座り手足の運動を行いました。患者さんやご家族は一生懸命に手足を動かされ、元気に笑顔で取り組まれていました。

私達、透析室スタッフもセミナー開催に向け、役割分担を行い、患者さんへの案内、名簿作り、ウエルカムボード作り、ポスター作りなど、それぞれに分かれて作業を行いました。開催当日は、朝早くからご自身で車を運転されて来られる方や、ご家族と一緒に来られる方、また杖をつきながら歩いて参加される方などたくさんの方々に来て頂き、関心の高さがうかがえました。講演中、一人一人が熱心に耳を傾けられていました。セミナーは、リラックスした雰囲気の中で進んでいき、最後には会場からたくさんの質問もあり、会場は活気に満ち溢れていました。



あっという間の時間でしたが患者さんをはじめご家族、スタッフ全員が同じ時間を共有できた事は、大きな成果でした。今後も多くの患者さんやそのご家族に参加して頂けるようスタッフ一人一人が信頼関係を築けるように努力していきます。また個々の患者さんと向き合い、より安心・安全な透析医療を提供していきます。



臨地実習の受け入れについて

3階病棟 看護師副主任 大城 将人

当院では平成27年度より、大牟田医師会看護専門学校より准看護科の臨地実習の受け入れを開始しています。実習生は一年次に「基礎看護学実習Ⅱ」二年次に「基礎看護学実習Ⅲ」臨地実習を行っています。

基礎看護学実習とは、学内で学んできた知識・技術・態度を初めて実際の場面を通して統合していく学習過程であり、受け持ち患者を援助することで、看護者としての自身の関わりや行動を振り返る機会となり、この体験は学生にとって印象深く、その後の看護の考え方に大きな影響を与えるといわれています。

また、実習指導者が実習生に与える影響も大きく、臨地実習が、いかに効果的な学習となり得るかは学習指導に関わる教員や実習施設側の指導者にとっての課題であると言えます。

そこで、臨地実習の受け入れに先立ち、当院では平成26年度より、福岡看護協会主催の福岡県看護実習指導者講習会(40日:240時間)に積極的に参加しています。

看護実習指導者講習会とは、看護教育における実習の意義や実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導が出来るように、必要な知識、技術を習得することを目的としており、指導者の育成の為、当院からも毎年1名ずつ受講し、現在4名の専任実習指導者が在籍しています。今年度も看護師1名が受講中です。私も昨年度、研修に参加し、とても充実した研修となり指導者としての在り方を学ぶことが出来ました。



<当院の実習で学べること>

実習病棟は循環器内科、内科、腎臓内科を主とした患者さんが入院する病棟であり、心筋梗塞や心不全、肺炎など急性期から慢性期まで幅広く深い看護を学ぶ事ができます。循環器に関しては、心臓カテーテルによる治療やペースメーカー植え込み術を行っており、治療前後の看護を学ぶ事ができます。また、老年期の患者さんも多く、疾患を持つ高齢者との関わりの中で、高齢者の抱える問題や生活背

	内 容	時間数	目 的
基礎看護学実習	基礎看護学実習Ⅱ	112時間 3週間	対象の基本的欲求を理解し安全・安楽に基礎的援助技術を習得できる
	基礎看護学実習Ⅲ	73時間 2週間	看護過程展開の基礎能力を養う

*平成29年度 大牟田医師会看護専門学校 准看護科 実習要綱より



景を知ることができ、更にはコミュニケーションを通じ、高齢者の知恵や体験、温かな心配りに触れることで今後のコミュニケーションスキルの手助けになるのではないかと考えます。また、施設からの入院も多く、拘縮、麻痺、認知症患者の安全・安楽に配慮した援助方法を考えることが必要であり、対象に応じた日常生活援助を学ぶことが出来ます。循環器は難しいなどのイメージがありますが、実習生が楽しく実習に臨めるよう指導者を中心に病棟全体でサポートしていきます。

＜実習指導者として＞

昨年度、初めて実習指導に携わり、実習生との関わりを通して、改めて指導する事の難しさを感じましたが、実習生から「出来ない所が出来るようになってよかった」「患者さんにありがとうと言葉をもらい嬉しかった」と前向きな言葉を聞くことができ、私も実習生から大きな刺激をもらい、指導者として成長し将来看護師を目指す学生を大切に育てたいという気持ちを強く感じる事ができました。実習生は「指導者との関係性」や「患者との関係性」などに対し不安や緊張の中、多くの事を学ぼうと一生懸命実習に臨んでいきます。そのため、私達は実習生が不安や緊張を緩和でき伸び伸びと実習に臨めるよう指導者、スタッフ、教員と連携を図り環境作りを行い、専任の指導者間だけでなく、実習生に関わる全ての看護師が実習生の実習要綱を把握し具体的な指導方法の統一を図り実習生が目標達成できるよう体制を整えていきたいと思います。また、多くの看護実践を経験し、学生が学んでいく過程において、これまで以上に看護の楽しさや達成感を感じてもらえるような関わりをこれからも心がけていきたいです。



柳川すぎ病院 健康教室を 開催しました

柳川すぎ病院 事務部長代行
米良 泰貞

2018年11月25日(日)第2回柳川すぎ病院健康教室を開催致しました。地域の皆様に、当院の事を少しでも知って頂こうと、職員一丸となって、準備を行いました。

血管年齢、筋肉量測定、骨密度測定、体脂肪測定、身長・体重・血圧・血糖・酸素飽和度・握力・下肢筋力測定を行い、1階の食堂では、治療食体験をして頂きました。

メニュー

- ・ オープンコロッケ
- ・ 炒めサラダ
- ・ 呉豆腐の黒蜜あん
- ・ 味噌汁



コロッケは通常の作り方で具を作って揚げるところ、容器に具を広げてオープンで少し焼くだけで、味は変わらずカロリーオフでき、揚げるより簡単だそうです。炒めサラダは、大根、油揚げ、干し椎茸、人参、生姜を千切りにし、少量の油で炒め、醤油、ミリン、酢、出汁で味付けします。薄味ですが冷めても美味しく食べれました。豆乳と片栗粉、くず粉で作った呉豆腐に黒蜜、きな粉をかけた和風のデザートです。当院で出してる味噌汁は、通常の味噌汁より減塩で、患者さんから好評です。簡単に出来るメニューを選んだので、今度作ってみたいと言われる方も多く、レシピを希望された方も多かったようです。

更に、相談ブースを作成し、医師、薬剤師、管理栄養士による、無料健康相談にも何名か来て頂きました。3階の機能訓練室(リハビリ室)では、「動脈硬化と心血管病変」をテーマに循環器医師古瀬副院長より、熱のこもった講演が行われ、質問をされる方々もおられ、皆さん熱心に聞いて頂けたようでした。

講演後終了後、当院リハビリ室スタッフによる健康体操「実技指導」では、セラバンド(伸縮性のあるゴムバンド)を使用し、腕や体幹、足の筋肉を鍛える運動やストレッチを来院された方とスタッフ全員で行いました。慣れない運動に「意外ときつい」との声がありましたが、皆さん笑顔で行われ「家でもやってみる」と話されていました。

全て終了し、帰られていく方々へお見送りをしていると、「来年も11月に開催するんですか?」と言われた方もおられ、早くも来年を楽しみにされていると思い、嬉しい気持ちになりました。

昨年は、「元気で長生きするために」をテーマに、今年は「あなたの血管は大丈夫?」と題して、開催した健康教室。当日は、天候にも恵まれ、昨年よりも多い40名の方々に来院して頂き、昨年と同様に満足していただいた印象を受けました。

2019年は、柳川すぎ病院となって、6年目を迎え、今では、循環器医師が毎日外来診察を行っております。地域の皆様に必要とされる病院になる事が、第3回、第4回、と開催できることにつながると感じています。

来院された方々に笑顔で会話し、信頼される病院を目指して、今後も職員一同頑張ろうと思います。



日の出町すぎ病院 ふれあい健康デーを 開催しました

日の出町すぎ病院 理学療法士
山中 剛志

2018年10月14日に日の出町すぎ病院にてふれあい健康デーを開催しました。

今回も「健康増進・健康寿命の延伸」を目的に地域又は現在、フレイル予防運動教室を利用されている利用者合わせて約35名の方の参加を頂きました。

講演では、理学療法士が運動教室を行っている中で少しずつではあるが効果が出来てきていること。管理栄養士からは、筋肉を増やすための効果的な食事のメニューが紹介されました。言語聴覚士からは、最近歯科の世界でも取り組みが行われている「オーラルフレイル」について紹介がされました。当院でも、外来・病棟でも取り組みを始めており少しずつですが症例数が増えてきているところです。今後も、「健康

増進・健康寿命の延伸」をテーマとした地域医療への貢献を当院としては行っていくことを院長をはじめ全スタッフで取り組んでいきたいと思っております。

また、講演の後半は、普段フレイル予防運動教室で利用している近隣の地域交流センター「ゆずり」をお借りしてフレイル予防運動教室1周年記念企画を行いました。

大牟田だけでなく様々な地域でご活躍のピラティスのインストラクターの先生にご指導いただき呼吸法や体幹の使い方や正しい姿勢で強いからだ作りをテーマに参加者と共にピラティス運動を行いました。運動が終わった後には、参加者から「今日は非常に勉強になった」「家でも少しずつですがやってみます」との声を頂き、準備に携わったスタッフ・講演の準備を行ったスタッフにもやってよかったと笑顔が出ていたことが印象的でした。

今後も当院としてはフレイル予防を中心とした健康増進をテーマに様々な取り組みを企画・運営し地域医療の貢献に関わっていけるよう努力していきたいと思っております。



開院記念日の料理紹介

2018年12月1日は当院の開院記念日でした。毎年、栄養室職員総出で、食材の仕込みや、盛り付けを行っています。

杉病院開院から31年を迎えることができました。1年1年大きな問題なく日々の仕事ができ、ご来院いただいている皆様や多くの関係者の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

今後も、おいしく心あたまる料理を提供できるように栄養室一同頑張っていきたいと思います。

メニュー

- ・赤飯
- ・松風焼き
- ・紅白なます
- ・すまし汁
- ・幽庵焼き
- ・エビ、里芋、南瓜
- ・巻き昆布



おすすめレシピ

旬の食材はおいしいのはもちろんですが、新鮮で栄養が豊富に含まれています。特に冬野菜は、秋までに成長が終わり、冬までに根付いているものなので、β-カロテンやビタミンCが多く風邪予防の効果が期待できます。さらに大根などの根菜類には身体を温める働きもあるといわれています。

鱈のみぞれ鍋

【材料(4人分)】

- ・鱈……………4切れ
- ・しめじ……………1/2パック
- ・大根おろし…2カップ
- ・溶き卵……………4個分
- ・みりん……………大1
- ・酒……………少々
- ・ねぎ……………2本
- ・だし……………6カップ
- ・しょうゆ……………大3



根の部分にある消化酵素のアミラーゼがたんぱく質の消化を促進し、胸やけや胃もたれ、二日酔いなどに効果的といわれている大根。皮の部分にはビタミンCが多く、葉にはβ-カロテンやビタミンC、鉄分などが豊富に含まれています。ビタミンCは免疫力を高める働きがあるので、風邪をひきやすい方にオススメです。

《作り方》

1. 鱈を一口大に切り、酒をふっておく。しめじは小房に分け、ねぎはぶつ切りにして軽く焼いておく。
2. 鍋にだしを煮立てたら、鱈、しめじ、ねぎを加えてさっと煮てから、軽く水気を切った大根おろし、溶き卵を加えてフタをする。少し煮たら、野菜も魚介もたっぷり摂れる鱈のみぞれ鍋の完成。

※鱈の代わりに豚肉を使用しても、おいしいです。



フィリピンから来ました。

医療機器管理室 広報委員 甲斐 弘樹

平成26年より福岡県医師会が行っている「福岡県医師会外国人看護師候補者資格取得支援事業」よりフィリピン出身の看護師一名と准看護師二名が当院にやってこられました。准看護師の二名は、看護師資格取得のための受験を当院で支援していきます。

大牟田の土地も初めてで、不安と緊張もある三人に、交流も兼ねてインタビューを行いましたので、紹介していきたいと思います。



左からジョイスさん、レアさん、テリスさん

杉病院で学びたいこと

〈ジョイスさん〉

循環器を専門にしている当院で、苦手意識のある循環器関連の知識（心電図解析など）を深めていきたい。

〈レアさん〉

大牟田医師会に通い、看護師の資格を習得し、当院で血液透析の知識や技術の向上に努めていきたいです。

〈テリスさん〉

フィリピンと日本では、看護の仕事のやり方が違うから、日本で看護業務を経験し、フィリピンでの看護業務に活かしていきたいです。

日本で楽しみにしていること

〈ジョイスさん〉

・温泉旅行やプロ野球を観戦したい

〈レアさん〉

・お寺や神社の参拝
・大相撲(九州場所)を見に行きたい

〈テリスさん〉

・三池初市などのお祭りに行き、浴衣を着たい
・春に花見をしたい



笑顔の素敵な三人です。杉病院の医療スタッフとして、一緒に頑張りましょう。

医療法人シーエムエス 杉循環器科内科病院



関連施設

医療法人シーエムエス
柳川 すぎ病院
〒832-0826 柳川市三橋町高畑263-1 TEL:0944-72-7171

医療法人シーエムエス
日の出町すぎ病院
〒836-0806 大牟田市東新町2-2-5 TEL:0944-55-3000

社会福祉法人 木犀会
特別養護老人ホーム すぎの木
〒837-0905 大牟田市大字甘木44-1 TEL:0944-58-1112

社会福祉法人 木犀会
ケアハウス やぶつばき
デイサービスセンター
介護予防・相談センター
小規模多機能ホーム こどう
〒836-0897 大牟田市青葉町130-2
TEL:0944-55-6666

介護付有料老人ホーム **ゆずりは**
〒836-0806 大牟田市東新町2丁目1-1 TEL:0944-41-2250

交通のご案内

- JR大牟田駅よりバスで約15分
- JR大牟田駅よりタクシーで約8分
- 九州新幹線 新大牟田駅よりタクシーで約5分
- 西鉄新栄町よりバスで約10分
- 西鉄新栄町よりタクシーで約7分

